



小児科ニュースレター

新年度が始まりひと月経ちました。新しい環境に慣れて元気に活躍しているかな？小児科も診療時間を改善し、あらたなスタッフでがんばっています。ドキドキわくわくは力のチャレンジのパワーの元。自分を信じて、勇気をだしてやってみよう。

<幼いころの記憶> 子どもは意外といろんなことを覚えているな～と思うことがよくあります。いったい何歳から私たちの記憶は作られるのでしょうか？そんな疑問から、「今でも覚えている小さいころのエピソード」を研修医先生に聞いてみました。

今年度も長野赤十字病院と長野市民病院から11名の先生が地域医療の研修に来ます。小児科でも診療しますので、ご理解、ご協力お願いいたします。



4月17日～28日
長野赤十字病院
平林太郎先生

須坂市出身で、将来は長野の医療に貢献したいと思いつつ精進しています。今回2週間信越病院で研修させていただき、信濃町の方々の優しさを実感しました。野尻湖ナウマンゾウ博物館、黒姫童話館など、まだ行ってないので行ってみようと思います。

幼い頃のことで一番印象に残っていることは、母におんぶしてもらい踏切を通る電車を見に行くことでした。その思い出を、久しぶりに実家へ帰った時母に話すと「3歳ぐらいの頃じゃない。もう何年前？よく覚えているわねえ」と驚いていました。電車が来ると私は嬉しくてはしゃいでいたそうです。私自身も電車が通り過ぎるシーンは今でも鮮明に残っています。両親が共働きで、私は近所の祖父の家によく預けられていたので、「母におんぶされて出かけられたその日が、本当に嬉しくて、楽しかったのではないかな」と母が、ポツリと言いました。私もそうだと思いました。続けて母は、「あなたは体重が重かったから肩がこってツラかったのよ」と笑いながら話していました。確かに私は生まれた時体重は4000gあり、その時何kgであったか…想像すれば安易に母の辛さがわかります。買い物の時も途中で切り上げた事が多々あったそうです。そんな母に感謝の気持ちを伝えたいです。今回私の記憶を辿ってみて、私も将来子供を持つ親となった時、一緒にいる時間を大切にしようと感じました。そして子供が大きくなった時に私と一緒にいた場面が記憶に刻まれていれば尚嬉しいと思いました。(平林)



★平林先生の思い出の1冊★
『100万回生きたねこ』佐野洋子(講談社)1977年
小さい頃によく母親に読み聞かせしてもらった本では、『まんが日本昔ばなし』『100万回生きたねこ』『ぐりとぐら』などですが、一番印象深いのは『100万回生きたねこ』です。100万回死んでも悲しくなかったねこが、はじめて愛することを知り、愛する者を失って涙を流すという内容です。絵本ですが大人向けの深いお話であり、家族の大切さを考えさせられます。ぜひお子さんに読み聞かせてあげてください。(平林)

外来時間のご案内 4月から診療時間が変わりました！

受付時間		月	火	水	木	金
午前	8時15分 - 11時30分	○	○	○	○	○
	診療開始は8時45分					
午後	13時30分 - 14時30分	相談外来 (予約制)				
	14時30分 - 15時00分	予防接種 (予約制)				
	15時00分 - 15時30分	○	○	○	○	
	15時30分 - 16時30分					

【5月の休診】
午前・午後休診：11、15日
午後休診：10、18、25日

【学校訪問】
17日 13-15時

【診療時間の短縮】
9、16、23、30日
午後の診療は
16時からになります



★4月-6月は健診のため休診が多くなります。ご注意ください。